天満宮

題字／後西天皇御宸筆

季刊
春　号
平成27年4月
Vol.6

特集

◆彬子女王殿下 御成り 「御花神饌」を奉献

◆樹齢三〇〇年 飛梅伝承の御神木「紅和魂梅」を後世に

シリーズ「天神と日本のこころ」第二回

◆「日本人と縄文の心」―日本文化の中の文化的遺伝子―

國學院大學名誉教授 小林 達雄

北野天満宮社報 春号 Vol.6
KITANO TENMANGU NEWS

北野天満宮の由来

当宮は御祭神に菅原道真公（菅公）をお祀りした全国の天満宮・天神社約一万二千社の宗祀（総本社）の神社です。天神信仰発祥の社として今から千年余り前の村上天皇天暦元年（九四七）六月九日、御神託により平安京の乾の地にあたる北野に御鎮座致しました。天徳三年（九五九）右大臣藤原師輔卿が御社殿を造営、一條天皇により北野祭は官祭に与り、「北野天満宮天神」の神号を賜り、さらに朝廷・皇室の崇敬を受け二十二社に加列、臣下として初めて官幣中社に列格され国家鎮護・皇城鎮護の神として崇められました。

寛弘元年（一〇〇四）、一條天皇がはじめて行幸されるに及び、以来歴代天皇の行幸も二十数度に亘り、将軍家や有力大名の崇敬を受けております。文道大祖・風月本主と崇められた菅公は、和魂漢才の精神で誠の心を以って学問に勤しまれたことから、学問をはじめ芸能・農耕・厄除け・至誠・冤罪を晴らす神として奉祀されています。そして菅公薨去延喜三年（九〇三）より百年をかけて北野の天神信仰が誕生致しました。

菅公は、千有余年の長い歴史の中で、人々の心の支えとなる神として、各時代の社会構造と相まって篤い崇敬をうけ、庶民・一般に至るまで「天神さま」と呼ばれ親しまれてきました。菅公が生涯一貫された「誠の心」は、日本人の感性として現在にも生きています。

現在の御社殿は慶長十二年（一六〇七）豊臣秀吉公の遺命を受けた豊臣秀頼公の造営で、八棟造という豪壮な建築様式を誇り国宝に指定されています。

菅公の御神霊を祀る北野天満宮は、御墓所・太宰府天満宮と共に全国天満宮の宗祀と称され、日本文化の礎、学問の神・天神信仰として篤く信仰されています。

【シンボルマーク】
平安京の乾（北西）に位置する北野の地・天門をイメージし、星欠けの三光門（三辰信仰）から星梅鉢を北極星と捉えた星の軌道と、神社の象徴である一の鳥居を描き、北野天満宮の信仰的特徴を捉えたマーク。

〈表紙写真説明〉

―― 御神木の飛梅「紅和魂梅（べにわこんばい）」も鮮やかに、大祭「春祭」を斎行 ――

御神前に植わる「飛梅伝説」伝承の御神木「紅和魂梅」が見頃を迎えた3月15日、春の大祭である春祭が斎行された。神楽舞「紅わらべ」になぞられた菅公の御心に呼応するが如く境内の梅は見事に咲き誇り、連日多くの観梅者を魅了した。

ご挨拶

彬子女王殿下御成り　御神前に「御花神饌」を奉献

彬子女王殿下、御神前に「御花神饌」を奉献

早いもので、本年も境内には馥郁たる梅の香りが満ち満ち、飛梅伝説伝承の木と云われます遅咲きの御神木、「紅和魂梅」が満開を迎え、境内梅苑には例年になく多くの観梅者が訪れました。

「東風吹かば 匂ひおこせよ梅の花 あるじなしとて 春を忘るな」

菅公の御歌として有名ですが、当時の心情、情景をお察し致し、日々御神慮をお慰め、御神徳に感謝申し上げております。

彬子女王殿下には、さる三月一日御成りになり、今回二度目となる和紙で作られた梅花の特殊神饌「御花神饌」を御神前に奉献され、御神意をお慰め戴きました。このことは当宮の皇室との永い所縁、崇敬を今日に伝える有難い慶事であります。引き続いて女王殿下には、総裁される「心游舎」の第二回目のワークショップ「墨絵を描く」を、社務所にて開催戴きました。

さて、一昨年よりの境内整備工事も順調に進み、当宮創建に由来する北野松原復元の為、参道沿いの松の植栽、「紅梅殿」の移築等を終え、今後はさらに国宝『北野天神縁起絵巻』に描かれた景観の再現、庭園整備等々を行って参ります。

本年には、いよいよ神社会館の建築に着手する予定であり、また史跡御土居の整備も進んでおり、近い将来、四季を通じて新しい景観をお楽しみ戴けるものと期待致しております。

信仰の原点を見つめ、より一層の天神信仰発揚、芸能・文化、茶道等、北野文化の発信をさらに進めて参る次第であります。

御皇室の弥栄を御祈念申し上げますと共に、皆様には今後とも北野天満宮の御事につき、ご理解ご協力の程お願い申し上げます。

北野天満宮
宮司　橘　重十九

天神さまと私

「北野天満宮と京都学園」

学校法人京都学園理事長　田辺　親男

完成した京都学園大学新キャンパス

北野の天神さん

全国の天満宮、天神社の総本社、天神信仰発祥の地であり、「学問の神様」、文芸の神様とされる菅原道真公をまつる北野天満宮は、学業成就、受験合格、勧学や文芸のご利益があることから、地元はもとより全国各地から多くの受験生や修学旅行生徒らが訪れて、真剣に参拝している姿をよく見かけます。本殿前三光門の手前東側にある「大黒天の燈籠」は、天神さん七不思議の一つとされ、石燈籠の台座に刻まれた大黒天の口に小石を載せて落ちなければ、その石を財布に入れて祈るとお金に困らないといわれ、若い人を中心に話題となっています。

菅公の誕生日と命日にちなんで、毎月二十五日に境内で開かれる縁日は、たくさんの露店や骨董品などが並ぶ市で、その日に参拝するのが私たちの子どもの頃からの楽しみであり、天皇ではない文人が祭神となった親しみも込めて、北野天満宮は「北野の天神さん」とか「天神さま」と呼ばれて、私たちの心に深く根付いています。

天神川（紙屋川）沿いのつながり

北野天満宮の境内西側には、天正年間に豊臣秀吉が洛中洛外の境界として築いた土塁（堤）である御土居の一部が残っており、国の史跡にも指定されています。その史跡御土居には、現在でもかつての自然林が残り、四季に応じて様々な美しさを感じることができます。

京都学園大学の新年参拝

竣工祭にて玉串奉奠される田辺理事長

御土居の西側には、昔、紙を漉いた紙座があり、その清流で朝廷が用いる紙を漉いたことから名づけられたという風情のある名前の「紙屋川」が流れており、今は朱塗りの鶯橋が架けられています。秋には、菅公がこよなく愛でられ初春の境内や梅苑に咲き競う梅と同じく、もみじ苑一帯が、菅公にゆかりのある紅葉によって、そのご神徳を偲ぶかのように美しく彩られ、赤や黄色に鮮やかに染まった樹々が川面に映え渡る光景は、まさに観る者を錦秋の世界へと誘ってくれます。

この紙屋川は、その後南下し、西京極を経て桂川に流入するのですが、天神さんに接して流れていることから、下流部では天神川と称されています。その途中、御池三条辺りの天神川沿い東側に、学園が本年四月に開設した開放的で都市型の京都学園大学太秦キャンパスが広がっています。

太秦キャンパスは、人の健康生活の実現と健康寿命の延伸を目指して新設した「健康医療学部」看護学科、言語聴覚学科のほか、改組した経済経営学部の経済学科、経営学科及び人文学部歴史文化学科の計五学科の拠点となっています。

このキャンパスは、市営地下鉄東西線の太秦天神川駅、嵐電天神川駅から至近距離で、近くには広隆寺や東映太秦映画村などがあり、市街中心部とも交通至便の場所に位置しています。

校舎より眺められる京都盆地を囲む東山山麓から北野天満宮方向、北山山麓にかけての自然景観は、私たちの目や心を癒やしてくれる素晴らしいものです。

農耕神としての関わり

天神さま、すなわち雷を落とす雷神は、雨を降らす農耕の神様でもあり、京都の代表的な秋祭りとして知られる天神さんの「ずいき祭り」は、かしら芋、茄子、唐辛子、ほおづきなどの野菜で飾ったずいき御輿（神輿）が鳳輦とともに巡行するというユニークなもので、天神信仰本来の姿を表しているともいわれています。　天神さまが、作物に豊穣をもたらす雷神であり、農耕に尽力する牛は菅公の神使であるという農耕（農業）と深く結びついていたことが、古くから多くの人々に深く信仰され、親しまれてきたゆえんであることが理解できます。

京都学園大学は、昭和四十四年四月に自然環境豊かな京都府下亀岡の地に経済学部を開設して開学した後、法学部、経営学部、人間文化学部の開設を経て、

神酒拝戴の儀

キャンパス前にて行われたテープカット

平成十八年四月にはバイオ環境学部（二学科）を開設しました。

本年四月からは、太秦と亀岡のダブルキャンパス体制に伴う学部学科改組の一環として、バイオ環境学部に農業の盛んな京都丹波地区の特性を生かした新しい食資源の開発や安全で価値の高い開発を目指した「食農学科」を新しく設けました。甲子園球場の五・五倍という広大な敷地を有する亀岡キャンパスでは、健康医療学部健康スポーツ学科、人文学部心理学科、バイオ環境学部（計三学科）の計五学科の拠点として、教育活動を展開していきます。

学問の神様への誓い

北野天満宮には、私が学園の理事長に就任した三年前から学園、大学の役員、幹部教職員が打ち揃って、昇殿参拝することを恒例にしています。

本年も、境内のあちこちに積雪の残る年始に、豪壮な八ツ棟造（権現造）内の、改修された国宝本殿に昇殿参拝し、加藤迪夫権宮司の玉串拝礼に続いて、私が玉串を奉げて参拝した後、橘重十九宮司の心に澄み渡る挨拶を拝聴しました。特に、今回は、巫女さんの「紅わらべ」奉納舞も鑑賞させていただき、菅公の加護のもとに、本学学生の学業向上と学園の発展のために尽力することを固く誓いました。また、三月七日の太秦キャンパスの竣工式には、橘宮司と加藤権宮司によるお清めの儀式を厳かに執り行い、新たな学び舎に真の学問の心を入魂していただきました。

太秦キャンパスには、米ハーバード大学アジアセンター提携プログラムの事務室を開設して、各種シンポジウムや講演会を開催することになっています。それは、遣唐大使として海外の実情にも精通していた菅公のひそみに倣い、世界的視野で主体的に考え行動するグローバルな人材の育成を目的とした交流事業を推進するためです。

私は、二年前から、同センターのシニアフェローに就任していますが、本年には、橘宮司、加藤権宮司ともども、ハーバード大学に赴き、医療、経済、歴史文化などについて講演を行うことになっています。

今後、学園関係者一同は、菅公から伝わる学問の精神をしっかりと受け継ぎ、「学生満足度１００％を目指す大学」として、社会が求める、人間力豊かな人材を育成することに全力を傾注する決意です。

略歴

〈氏　名〉田辺　親男（たなべ　ちかお）
〈生年月日〉一九四七年四月十九日　六十七歳
〈最終学歴〉一九七二年　京都府立医科大学　卒業
一九七二年～七九年　京都府立医科大学附属病院　在籍
一九七九年　医学博士号　取得
〈現　職〉親友会グループ　会長
（京都）
医療法人親友会　島原病院　理事長
医療法人知音会　御池クリニック　最高顧問
株式会社京都メディカルクラブ　会長兼社長
財団法人薬師山病院　理事長
株式会社メディカルバンク　会長兼社長
株式会社京都メディカルラボ　会長
親友会ホールディングス株式会社　会長
医療法人　知音会　四条烏丸クリニック　最高顧問
（大阪）
医療法人知音会　中之島クリニック　最高顧問
医療法人あけぼの会　理事長
学校法人京都学園　理事長
京都がくえん幼稚園
京都学園大学
一般社団法人京都経済同友会　特別幹事（二〇一三年四月～）
〈その他主な公職〉
ハーバード大学アジアセンター
シニアフェロー（二〇一三年十一月一日～）
京都府立医科大学　臨床教授（二〇一五年四月一日～）

着々進む 1125年半萬燈祭に向けての境内整備

牛舎鳥居奉納奉告祭 粛々と朱色の鳥居のくぐり初め

一願成就の社として受験生らの信仰が篤い牛舎は、昨年秋、約四十年ぶりに元の位置である境内北西隅に遷座したが、その参道両側を彩る朱塗りの鳥居が次々奉納され、昨年十二月二十一日午前十時半から本殿において奉納奉告祭を斎行した。

奉納いただいた皆様

奉告祭には鳥居の奉納者らが参列、祝詞奏上の後、奉納者が玉串を奉奠した。祭典後、奉納者は牛舎に移動し、粛々とくぐり初めをした。

牛舎は、元々、この位置にあったが、昭和四十九年に南西隅に遷座、千百二十五年半萬燈祭（平成三十九年斎行）に向けての境内整備の一環として、昨年、元の場所への再遷座となった。

北野天満宮は、平安京の乾（北西隅）の方向に位置しているところから都を守る乾天神として呼ばれてきた経緯があり、牛舎の場所は、さらに境内の乾の場所という神聖な地であり、願いごとが叶う一願成就所として受験生らの篤い信仰を集めている。

鳥居を奉納されたのは次のみなさん。

平澤勇亮、平澤あさ尾、木俣雄太、大道舞三郎、大道智己、北野天満宮神若会、空間創研、柴田石材、樋口造園、建築研究協会、奥谷組、橘重朗（順不同・敬称略）

よみがえる「北野の松原」 表参道への松植樹始まる

平成三十九年に斎行する千百二十五年半萬燈祭に向けた境内整備事業の一環とする表参道への松の植樹が昨年十二月十日から始まった。約五十本の松を植樹し、往時の「北野の松原」の景観をよみがえらせる。

今では梅の名所と知られる当宮だが、「わが棲まんところは一夜にして千本の松の生ずるところ」という菅公のご神託や一の鳥居をくぐり、すぐ右側の影向松（ようごうのまつ）には、毎年初雪の際、御祭神が降臨され、雪見の歌を詠まれるといった伝説もあり、古来から「北野の松原」と呼ばれるほど松の緑豊かな所であった。

江戸時代の絵図や明治から昭和にかけての写真にもその面影は残っているが、近年、松食い虫の被害が年々ひどくなり、現在では松の本数は大幅に減っていた。

本殿での奉告祭に引き続き、午後二時から楼門前に植樹された最初の松の前で清祓が行なわれたが、多数の報道陣が駆けつけ、その模様をカメラに収めていた。

植樹祭

丹塗りも鮮やかに、摂末社遷座祭厳かに斎行

千百二十五年半萬燈祭に向けた「平成の大改修」の一環として、摂社地主神社の仮遷座祭併せて境内西側に鎮座する摂末社（文子社・神明社・四社・七社）の遷座祭を三月十五日午後六時より斎行した。

一昨年より進めている境内西広場の整備事業である紅梅殿の移築に伴い、文子社・神明社・四社・七社は場所を移すとともに、社の修繕を施していたが、このほど修繕が完成し、仮遷座をしていた文子社・神明社・四社・七社の神々を無事にもとの社に遷座した。

目も覚めるような美しさを取り戻した四社や七社の連棟社には、連日多くの崇敬者が参詣している。

丹塗りもあざやかに…四社、七社

百年かけて平安京に誕生した天神信仰
シリーズ「天神と日本のこころ」第二回

「日本人と縄文の心」

――日本文化の中の文化的遺伝子――

國學院大學名誉教授　小林 達雄

古今東西、さまざまな文化の盛衰がある。それぞれは、独自の地域を舞台とするドラマだ。そこに生まれ、そこで育った人々全員が自らの役回りを演じるのであるが、単なる人間集団だけで完結するのではなく、その土地の地理、気象、植物、動物などの生態系との関係であり、仕組みであり、その方法である。はたまた土地柄、風土、国風（くにぶり）として個性を発揮する。

日本文化の個性は、ほかでもない、容易には較べるものとてないほどの独自性が際立っている。これには、日本文化の履歴の冒頭に一万年以上続いた縄文時代の存在が密接にかかわっている。

縄文文化は、永い旧石器時代と一線を画した縄文革命を契機に幕を上げた。それまでの遊動的な生活様式から定住的なムラを営むようになったのだ。その間の事情は、なによりも土器の製作使用の開始がよく物語っている。土器製作は、粘土の掘削に始まり、素地を拵え、ねかして、成形に着手し、十分に乾燥させて焚火で焼き上げる。その燃料の薪の用意なども加えて、いかにも手間暇かけてこそ、はじめて成就できるものであり、遊動生活においては到底不可能である。青森県大平山元遺跡出土の最古級の土器に附着したオコゲで計測した年代は一万五千年前に遡り、抜群の古さを示している。土器登場の経緯が最もよく辿れる中近東メソポタミアの土器でさえ、せいぜい九千年。南アメリカ、アマゾン川流域の貝塚では六千五百年前の古さにとどまることに徴すれば、縄文文化の他にさきがけの滑り出しはいかにも注目に値する。

縄文カレンダー
（小林原図・新潟県立歴史博物館提供）

ところで、縄文ムラのソトにはハラが広がっている。ハラには、自然的秩序が維持され、縄文人の食料庫であり、必要な道具の材料を提供してくれる資材庫であった。

どのような食料を利用していたのか、その全容を知ることはできない。その殆どが酸性土壌の中では、酸化したり、バクテリアによって分解されたりして、その姿かたちをとどめていないからである。辛うじて炭化したり、水気の多い包含層のおかげで真空パックの効果が働いてごく一部が残っているに過ぎないのである。約六十種類の植物性食料の残滓を数えるが、当然食べたと推定される、ゼンマイ、ワラビ、ヤマイモ、ウド、ノビルなどは未発見のままである。白井光太郎『食用植物』には、キノコ類抜きで四五〇種類示されているが、縄文人の植物食も決して負けをとるものではなかろう。つまり、多種多様な利用を特徴と

小林達雄先生　略歴

一九三七年新潟県長岡市生まれ。博士（歴史学）。文化庁文化財調査官、國學院大學文学部助教授・教授を経て、現在、國學院大學名誉教授、新潟県立歴史博物館名誉館長。一般向けの著書として『縄文土器の研究』（小学館・学生社）、『縄文人の世界』（朝日選書）、『縄文人の文化力』（新書館）、『縄文の思考』（ちくま新書）、『縄文人追跡』（ちくま文庫）。編著として『世界遺産縄文遺跡』（同成社）、『縄文土器を読む』（アム・プロモーション）。

し、このことは貝塚出土の魚貝類や動物遺存体においても共通して見てとることができる。この多種多様な食料資源の開発、利用を筆者小林は「縄文姿勢方針」と呼んで重視する。

食い意地が強くて、手当たり次第に口に入れていた効果がもたらす当然の帰結とみるようでは真髄を見逃す。まずは、可食物を特定し、毒物や食毒不明な種類を区別する必要がある。そのためには「名づけ」が不可欠である。それぞれが持つ名前によって記憶を確かなものとし、万人共有の知識となるのだ。ここに言語、ことばの基本的な機能がある。さらにその名の生育場所、旬の季節や調理法にまで知識が広がっていくのである。

こうしてムラを取り巻くハラは、植物が繁茂し、動物が生育する空間として忽ち縄文人が操る名前で充満し、それらの名前が構成する縄文人の論理が働く空間へと止揚する。

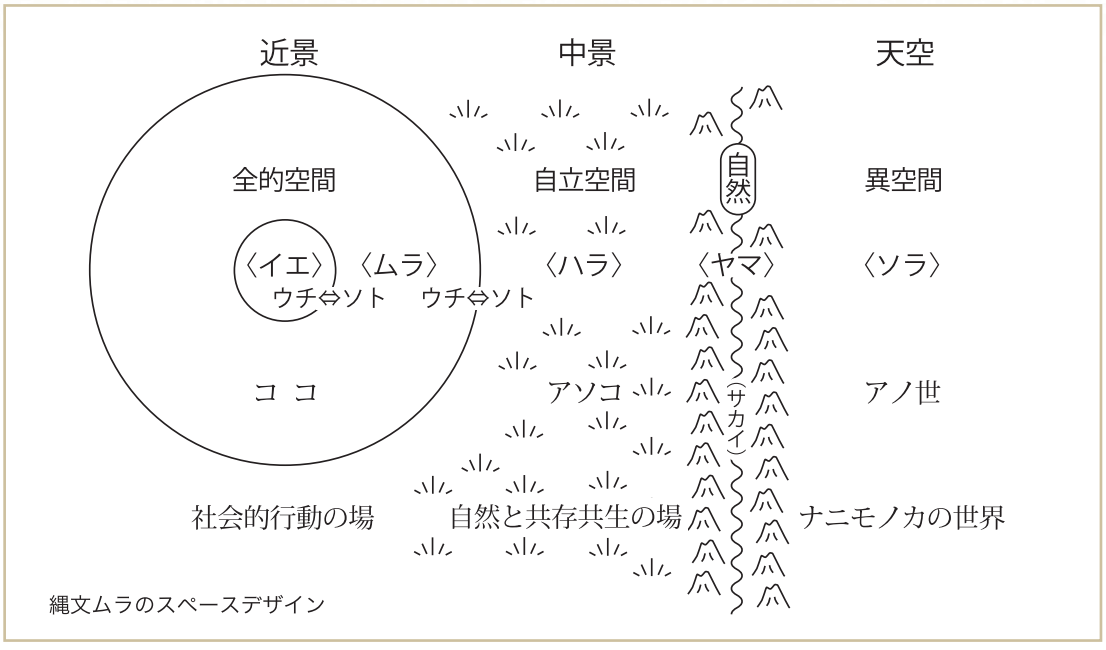
ハラにおける縄文論理空間を構成する諸々は、一方的に名づけられた受動的、静的存在では決してなく、みなもの言う草木であり精霊を宿して活発に動き回って縄文人と関係を結ぶ。梅原猛（『人類哲学序説』）は、そこに「草木国土悉皆成仏」を観る。世界各地の自然民族のアニミズムに通ずる。そして、日本の八百万の神の世界、神道的心に重なってくる。

一万年をはるかに超えた縄文論理空間における自然との共存共生の歴史的経験は独自の縄文文化の主体住性確立に大いにかかわるものであり、大陸側には絶えてみることがない。大陸においては縄文革命と並んで、新石器革命＝農業革命によって定住的なムラを営む段階へと発展するのであるが、ムラのソトには肝要のハラがない。むしろハラを否定するばかりか、目の敵にして、征服せんとするのである。開墾し、ノラに転換する作戦を展開する。だから縄文人がハラと共存共生した一万年以上の体験とは全く無縁のままに、それとは対照に自然を征服する道を一途に突き進み、次々とその周辺地域に影響を広げ、歴史を先導したのである。日本列島の縄文文化は、その世界的な潮流の勢いに乗ることなく、自然との共存共生の道を歩み続けた。それが、同時代の大勢に与することなく縄文文化が独自路線に終始した結果につながった。この間、縄文の力が培われ、生物学的な遺伝子ＤＮＡとは別に、いくつかの文化的遺伝子が生み出され、縄文文化に刷り込まれたのである。

文化的遺伝子とは、ことばである。文化がことばを生み、ことばが文化、縄文論理空間を作り出す相互作用を通じて、現代日本文化に至るのである。換言すれば、縄文文化の独自性は、個性豊かな縄文語の生成を促し、その往還を繰り返しながら現代の日本文化と現代日本語の際立った特殊性を導いてきているのである。

世界各地には六千以上の言語が知られている。それぞれに共通性、独自性が認められるが、とりわけ日本語にはいくつもの顕著な特性がある。その一つがオノマトペ（擬音語、擬声語、擬態語）の豊富な発達で、決して他の追随を許すものではない。それは、他言語が経験しなかった日本語独自の歴史をもつからにほかならない。つまり、自然との一万年以上もの共存共生だ。縄文人が、縄文日本語による仲間とのコミュニケーションにとどまらず、縄文人をとりまく、草木みなもの言う森羅万象との関係においても言語活動を意識してきた成果である。この事実は、自然との共存共生からさらに一歩踏み込んだ、自然との共感共鳴ともいうべき関係なのである。まさしく現代の俳句のこころにまで通じているかに見える。

（次号に続く）



縄文ムラのスペースデザイン

彬子女王殿下御成りになり、「御花神饌」奉献

子供たちとともに水墨画のワークショップ

寛仁親王殿下第一女子の彬子女王殿下が三月一日御成りになり、本殿で「御花神饌」を奉献された後、社務所大広間において子供たちのために水墨画のワークショップを開催された。

彬子女王殿下の当宮への御成りは平成二十四年十二月、二十五年四月、二十六年二月に続いて今回で四度目。

参加者全員と記念撮影

子供たちと親しくされる彬子女王殿下

午前中、本殿において御花神饌を奉献され、一拝された。午後から社務所大広間で行われた水墨画のワークショップは、総裁をされている一般社団法人心游舎（しんゆうしゃ）活動の一環で「日本の伝統文化が生き続ける土壌を作るため、その核となってもらう子供たちに本物の日本文化に触れる機会を提供したい」との思いに基づくもの。

京都・大阪を始めとする近畿圏の小学生を中心とする子供約三十人とその保護者が参加した。まず彬子女王殿下が「墨絵のワークショップに取り組むのは、心游舎では初めてでしたが、あっという間に定員に達してしまうほどの人気でした。最近小学校の教科で書道がほとんどなくなっています。また、折角書道をしても墨汁を使うことが多くなっています。私は硯で墨をするという感覚が好きでしたので、みなさんにもそれを味わってもらい、いっしょに楽しみましょう」と、挨拶された。

引き続き橘宮司が「心游舎総裁である彬子女王殿下の御成りを賜り、墨絵のワークショップが開催されたところ、こんなに大勢の方に参加して頂き感謝します。私も楽しんで見せて頂きます」と、歓迎の挨拶をした。

今回のワークショップの講師は、日本画家の神戸智行氏。まず〝墨博士〟と呼ばれる墨造りの専門家から墨の製造工程などの解説があり、実際に硯で墨をするところから始まった。

この後、神戸氏の指導を受けながら、子供たちは思い思いに小さな和紙に牛や梅などの墨絵を描いて練習した。最後に大きな和紙に梅の花びらを描く共同作業の場面となると、彬子女王殿下も子供らの輪の中に加わられ、和気あいあいの雰囲気の中で制作が進んだ。完成した作品は奉納された。

真剣な表情の子供たち

ワークショップの様子

乙未
初詣

六十一年ぶりの大雪も何のその
「よい年に」「学力向上」「志望校合格を」…願い込め、人の波

雪の降る中、初詣参拝者でにぎわう御本殿前

平成二十七年、未年の新年を迎えた。京都市内で六十一年ぶりの大雪を記録するというハプニングもあったが、「よい年でありますように」「学力が向上しますように」「志望校へ合格しますように」―などなど、様々な願いを込めて神前に祈る初詣参拝者で連日賑わった。

京都市内の雪は、元日の午後と、二日夜から降り、三日未明の積雪は二十一センチとなり、一時社殿がすっぽりと雪に覆われる事態となった。京都地方気象台によると、京都市内で二十センチ以上の積雪は六十一年ぶりの記録という。

激しい降雪の時は、さすがに参拝者の数は鈍ったものの、雪がやむと参道は人の波が続き、いつもながらの初詣風景となった。

新春を迎える神事は、十二月三十一日午後四時からの本殿前での年越しの大祓で始まった。約四百人の参拝者が参列し、神職とともに大祓詞を奉唱し、この一年間に身についた罪や穢れを祓った。同七時からは本殿において除夜祭を斎行、一年間の無事に感謝し、新年がよりよい年であるように祈願した。

雪に覆われた三光門

雪化粧の境内

同七時半から摂社火之御子社神前において鑽火祭を斎行、古式により浄火を鑽り出した。同十時からは、浄火を篝火に移し、初詣参拝者への火縄授与が行われた。参拝者への授与は例年梅風講社員によって行われているが、今年は翔鸞消防分団員四十人も奉仕に加わった。

新年最初の神事歳旦祭は、元日午前七時から宮司以下神職によって本殿で厳かに斎行され、世界平和・国家隆盛・皇室と氏子崇敬者の弥栄を祈願した。

本殿前の中庭は、連日、神前に祈りをささげる初詣参拝者で身動きが取れないほどの混雑となった。授与所は、勧学のお守りやお札・絵馬などを授かる人の行列ができ、牛舎や絵馬掛け所では絵馬に志望校を書き、祈願する若者らでごった返した。

火縄授与の奉仕をする翔鸞消防分団員

北野の光

斎行された祭典・行事〈一月～三月〉

元旦から「思いのまま」授与 初詣参拝者に人気

昨年の初天神で約六十年ぶりに復活した招福の梅の枝「思いのまま」の授与が、今年は元旦から始まり、初詣参拝者の人気を呼んだ。

「思いのまま」は、神域にある約五十種・約千五百本の梅を開花前に剪定した枝に、菅公を偲ぶ梅花祭で神前に供える特殊神饌の調製に用いる厄除け玄米の入ったひょうたんを取りつけ、厄除け・諸願成就などの願いを込めている。

かねてから「剪定された御神木の梅の枝を授与してほしい」との崇敬者からの声が高く、千五十年大萬燈祭（昭和二十七年）の年の初天神に授与した記録が見つかったことから昨年の初天神で約六十年ぶりに復活させた。結果は一時間足らずで予定数が出払うという人気となり、「来年はもっと早くから授与してほしい」という声をうけ、今年は元旦からの授与に踏み切った。

「思いのまま」授与

池坊京都支部献華展

池坊京都支部（中路喜久子支部長）による新春奉納献華展が元旦から一月二日まで神楽殿で開催された。

恒例の献華展で、立花・生花・自由花の形で生けられた六点の新春の香漂う作品に、初詣参拝者が次々立ち止まり、見入っていた。

献華展

新春奉納狂言

恒例の新春奉納狂言が一月三日午後一時から神楽殿で行われた。

猿楽会と茂山良暢氏によるもので「末広かり」「清水」「棒縛」「福之神」など六番が奉納された。時折小雪の舞う寒さだったにも関わらず、多くの初詣参拝者が見入っていた。

奉納狂言

楼門に糸人形 黒田官兵衛と妻の光

楼門の内側左右に今年も西陣つくりもの人形「糸人形」が元旦から五日まで展示された。

昨年のＮＨＫの大河ドラマに想を得た「黒田官兵衛と光」がテーマ。向かって右側は官兵衛とその妻光の仲睦まじい姿を、また左側には馬上凛々しい官兵の姿を帯地や絹糸などを使った糸人形として創出した。西陣織工業組合の依頼で毛利ゆき子西陣和装学院学長の監督・指導の下、毛利氏と有志による制作。

糸人形

そろばんはじき初め

新春恒例の「そろばんはじき初め」が一月五日午前十時から絵馬所で小学生らおよそ四百人が参加して行われた。

全員が本殿に昇殿参拝し、そろばんの腕の上達を祈願した後、絵馬所に移動して長さ五・五メートル、四百桁もある超大型のジャンボそろばんなどを使ってはじき初めをした。

はじき初め

筆始祭

優れた書家でもあった御祭神菅原道真公をしのび一月二日午前九時から本殿で筆始祭を斎行し、書に親しむ人たちの技術の向上を祈願するとともにこの日から「天満書」を始めることを奉告した。

筆始祭

書道の上達を願い、力強く「天満書」

神前書き初め「天満書」が一月二日から四日まで絵馬所で行われ、寒さの中、書の上達を願う初詣の幼稚園児・小中学生らが力強い筆さばきで書き初めをし、作品を奉納した。

古くより当宮の神前書き初めを「天満書」と呼んでおり、今では正月の恒例行事となっている。三日間で千三百六十点（幼児八十九点、小学生五百九十六点、中学生二百三十七点、高校生八十三点、一般三百五十五点）の作品が奉納された。

また、この期間中、家庭で書かれた作品一六〇一点（幼児二百十九点、小学生九百六十三点、中学生二百三十三点、高校生七十点、一般百十六点）も奉納された。

天満書

審査入念に、九百四十五点が入選

奉納された全作品の展示が一月二十三日から三十一日まで本殿前西廻廊と絵馬所であり、書家の山本悠雲・岡本藍石・竹内勢雲・日比野実の四氏と橘宮司によって行われた。「正月」「ひつじ」「合格」「躍進」「万歳」など、子供たちが願いを込めて書いた作品を審査員が一点一点入念に審査し、神前の部四百五点、家庭の部五百四十点、計九百四十五点の入選作を決めた。

審査風景

入選者授賞式

入選者の授賞式は、天満宮賞など特別賞に輝いた子供とその家族が参列し一月三十一日午後三時から本殿で行われた。

授賞式に先立って奉告祭が斎行され、参列した子供の代表が玉串を捧げ、それに合わせて全員が拝礼、書道の上達を祈願した。

この後、授賞式に移り、橘宮司が「みなさん、受賞おめでとうございます。これを励みに天神さまの加護を受け、勉強にスポーツに、一層頑張ってください」と挨拶。一人ずつ賞状と記念品を手渡した。

授賞式

入選者は次のみなさん。

【神前の部】

▽天満宮賞　岡本和眞（柊野保育園年少）、亀井都愛（楽只小一年）、森田裕生（田原本東小二年）、中瀬蒼彩（桂坂小三年）、山畠祐希（養父市立伊佐小四年）、藤井姫流（大宮小五年）、上田璃梨香（鷹峯小六年）、中西なつみ（京都産大附属中一年）、須堯歩美（二条中二年）、宮崎佐知子（京都教育大附属京都小中学校三年）

▽京都新聞特別賞　千葉政宗（早稲田実業学校六年）

▽京都新聞賞　伊藤玲（浜松市立北小一年）、別府さやか（千里神殿小二年）、増川颯風（常盤野小三年）、亀井心寧（楽只小四年）、古島寧々（御所南小五年）、井上京香（大成中一年）、川元ひなの（東輝中二年）

▽鳩居堂賞　尾西桃汰（洛北幼稚園年長）、東慶史郎（大阪教育大附属池田小一年）、西村凌（桂徳小二年）、松木捺葉（桂川小三年）、小嶌里奈（上賀茂小四年）、尾西風音（元町小五年）、桒名悠喜（深谷小六年）、小野紬（城南中一年）

▽金賞　山田愛也（谷口書道教室・中一年）始め百四十四人

▽銀賞　滝本百花（横浜市立山内中一年）始め二百三十三人

【家庭の部】

▽天満宮賞　大槻夏葉（大徳寺保育園年長）、古島利一（御所南小一年）、山中柚葉（亀岡市立安詳小二年）、安田伊志（一燈園小三年）、亀井心寧（楽只小四年）、西村日向（京田辺市立普賢寺小五年）、三好百々花（亀岡市立つつじヶ丘小六年）、段本まなみ（亀岡市立南桑中一年）、岩見知紗（洛南中二年）、美馬光（南丹市立八木中三年）

▽京都新聞賞　濱之上央（京都教育大附属小一年）、合志知優（京都教育大附属京都小中学校二年）、塩田友紀（百々小三年）、服部潤（白川書道塾四年）、杉江悠吾（京都子ども文化会館五年）、石原早樹（祥栄小六年）、荒木涼花（伏見中一年）

▽鳩居堂賞　川﨑拓海（大徳寺保育園年長）、余田結衣奈（門真市立門真みらい小二年）、芦原英太（亀岡市立詳徳小三年）、船越望乃（大久保小四年）、佐々木陽平（上賀茂小五年）、土井田将和（音羽小六年）、増田善也（旭丘中二年）

▽金賞　松村洋都志（上賀茂小一年）始め百九十六人

▽銀賞　岡部なな（阪本教室・小一年）始め三百十七人

〈審査員の講評〉

大雪の中でもこれだけ多くの子供たちが「天満書」を奉納したという気持ちがうれしい。今やこの催しが完全に京都の新年の風物詩として根付いているからだ思う。神前で書いて奉納した作品は、一年をこういう年でありたいという願いが感じられた。選ぶ方としては全員を入選作にしたいぐらいだが、審査となると基本に忠実に名前まできちんと書いている作品を選ぶことになる。小学校高学年の作品が一番充実しているように思えた。家庭の部の作品も結構心を込めて書いたものが多かった。

たくさんの作品を見せていただいたが一枚一枚に書き手の気持ちが籠っており、新年に当たって天満宮に奉納するのだという意気込みが感じられ、一般の書道展にはないものがある。

初天神、好天でにぎわう

初天神の一月二十五日、穏やかな好天となり、終日参拝者でにぎわった。

表参道沿いには多くの露店が並び、朝から夕刻まで参拝の人波は途絶えることなく続いた。すでに受験シーズンに入っており、本殿前の中庭は、祈りを捧げる人の行列ができた。また、牛舎周辺も受験生らで混み合い、傍らの絵馬掛け所は、志望校を書いて掛け、手を合わす人で終日混雑した。

梅苑開苑

梅苑が二月七日から開苑した。今年の一番梅の開花は十二月十八日の早咲き種の紅梅で、厳冬の影響によって過去十年間ではもっとも遅い開花日となった。しかし、その後は順調に咲き出し、開苑した梅苑や境内は梅の香が漂った。

節分祭　伝統の追儺狂言・日本舞踊奉納・豆まき
――無病息災を祈願

節分の二月三日、午前十時から本殿で節分祭を斎行するとともに午後一時から神楽殿において北野追儺（ついな）狂言・日本舞踊の奉納があり、最後は盛大に豆まきを行って向こう一年間の災厄を祓った。

京都では節分ゆかりの四社寺を参詣する習わしが「四方詣り」として今も残っており、当宮は、その最後を担う重要な社として信仰されている。

北野追儺狂言は、茂山千五郎社中による奉納で、摂社福部社の御祭神福の神が都を荒らす鬼を追い払う筋書き。「鬼は外！」の掛け声で、福の神に豆をまかれ、鬼が退散すると参拝者から拍手がわいていた。

引き続き上七軒歌舞会の芸舞妓による日本舞踊の奉納があり、最後は出演の狂言師や芸舞妓が「福は内！」と、威勢良く福豆袋をまいた。

梅花祭献句

平成二十七年二月二十五日
宮司　橘　重十九選

「梅花祭野点大茶湯」でお点前の奉仕をした上七軒歌舞会の芸舞妓さんらが祭について一句つくり、献句した。橘宮司が審査し、天・地・人・佳作を選んだ。

天　春立てと梅の香そえて振る茶筅　梅ちえ
地　七軒の宮居に匂ふ梅まつり　勝音
人　露帯びて心にくしき匂草　市照
佳　春隣野点の茶筅軽やかに　梅嘉
佳　天高く伸びるヤリ梅北野かな　尚鈴
佳　春愁に色づく花を仰ぎ見る　尚そめ
佳　匂い鳥野点の席の静けさに　市知
佳　床の間の梅一枝に君も微笑む　市多佳

梅花祭

ポカポカ陽気の梅花祭
特殊神饌奉饌、神職は冠に菜の花挿し斎行
「野点大茶湯」に長蛇の列、梅苑もにぎわう

こよなく梅を愛された御祭神菅原道真公の祥月命日に当たる梅花祭が二月二十五日午前十時から本殿で厳かに斎行され、御遺徳を偲んだ。

神前には、当宮神人の末裔で組織される七保会の会員が調製した大小の台に蒸した米を盛った「大飯（おおばん）」「小飯（こばん）」の「梅花の御供」や紅白の梅の小枝を挿した「紙立（こうだて）」の二種の特殊神饌を奉饌して斎行された。

神職は、菜種が宥（なだ）めるに通じるとする慣例によって冠に菜の花をつけて祭典の奉仕に当たり、今年も皇后陛下の御代拝として宮内庁京都事務所長が参向され、御拝礼された。

五十種・約千五百本の梅は全体としては五分咲きだったが早咲き種は満開。

三光門前西広場では秀吉公の「北野大茶湯」にちなむ恒例の「梅花祭野点大茶湯」、が行われ、梅の香がほのかに漂う中、上七軒歌舞会の芸舞妓さんのお点前で優雅に一服を楽しむ参拝者の長い行列ができた。

この日の京都は、平年より三度以上高い最高気温十三・八度のポカポカ陽気となり、早朝から夕刻まで参拝者で大賑わいとなり、本殿前や露店の並ぶ表参道は、終日混雑、二月七日に開苑した梅苑も賑った。

天神さん紅白の梅香り立つ　玉　幸
賑おおて一服の茶に梅香る　梅ざく
遠来の客に乞はれて梅野点　梅　嘉
胸躍る香る梅と野点かな　尚ひろ
梅花祭うぐいす鳴きて花の笑み　梅志づ
しら梅の香り届きし野点席　勝　也
茶筅ふる手をとめ見あぐ梅の園　梅　葉
水温む指先寒き野点かな　尚可寿
梅を見てなごむ心の天神さん　市　桃
百年の客間を今に梅の花　梅わか
初梅や我が心にも春のそよ風　里の助
冬どけの訪れ告げる梅の香や　里の助
白梅の清きすがたに恋焦がれ　市まり
梅見行天神の梅畑　勝　奈
咲きそめし七軒茶屋にも匂い鳥　市多佳
まだ咲かぬどちらが早いか我と梅　市多佳
咲き誇る梅にうぐいす春を呼ぶ　梅　蝶

梅風祭　講社の隆盛を祈願

崇敬者組織、梅風講社（小石原満講社長）の祭典である梅風祭が三月二十五日午後三時半から本殿で斎行された。

祭典には約五十人が参列し、白衣・緋袴姿の八乙女が優雅に鈴舞を奉納した。この後、関係者が玉串を捧げて梅風講社の益々の隆盛と講社員の無病息災を祈願した。

鈴舞を奉納した八乙女は次のみなさん。

後藤初寧、成田悠香、青山璃南、青山愛実、泉　珠以、田村みその、北村柊奈、田子夢乃

梅風祭

菅公の御心宿る「御神木の梅」後世に継ぐ
住友林業の協力、組織培養による苗木増殖に成功
～境内植樹とともに「平成の飛梅伝説」を全国に～

樹齢300年を超える御神木の飛梅「紅和魂梅（べにわこんばい）」

本殿前の紅梅は飛梅伝説伝承の御神木と伝えられているが、これまでむずかしいとされてきた組織培養による苗木の増殖に成功し、三月四日、研究に携わってきた住友林業と当宮による共同記者会見が社務所大広間で催された。近年、梅のウイルス病が蔓延、各地で大量伐採被害が出ており、「御神木の梅」をどう守るかが喫緊の課題となっており、組織培養による苗木増殖に成功したことで、そのDNAは、永久に守り継がれていくこととなった。

梅の寿命は、一般的には百年から二百年といわれているが、本殿前の「御神木の梅」は、麻耶系の紅梅で幹回りなどから樹齢三百年以上と推定される古木中の古木。古くより植物の増殖には接ぎ木、挿し木の技術が行われてきており、今回の調査によると、御神木に接ぎ木が施された形跡が見られることから、さらに年数・時代が遡ることが判明した。今後の調査が期待される。

当宮所蔵『宮仕日記』の寛政五年（一七九三）十一月二十五日の条に「庭

住友林業筑波研究所による梅の苗木の組織培養研究

「御神木の梅を後世に」記者会見の模様（社務所大広間）

上（本殿前）の梅の木は、いわゆる飛梅の種に間違いないが、この梅の前に飛梅木と記した石碑を建てるかどうか」といった内容の京都西町奉行所とのやり取りの様子が書かれており、もうそのころから「飛梅伝説」伝承の御神木として特別視されてきたことがわかっている。

境内には五十種・約千五百本の梅の木があり、市内でも有数の梅の名所。近年、ウメやバラなどバラ科植物に広く感染する「プラム・ポックス・ウイルス」（PPV）が世界各地で発生、六年前には東京都の梅林で約千七百本が伐採されるなど平成二十六年五月現在、感染は十都府県・三十八市町に広がっている。

幸い京都府内でのPPV感染については現在のところ、確認されていないものの、当宮では感染を防ごうと毎年、消毒と栄養補給に力を注ぎ、ウイルス拡散の原因の一つとされるアブラムシの駆除に力を注いできた。とくに「御神木の梅」は、古木であり、いわば菅公の御心が宿っている信仰の木だけに、何としてもその種を後世に守り継いでいかねばならないとの思いから六年前、様々な樹木の組織培養・苗生産技術の成功実績を持つ住友林業へ技術協力を要請していた。

挿し木・接ぎ木による苗木の育成は比較的容易に出来るが、木の若返りが望めないところから、組織培養による増殖を選択した。実梅の組織培養については、これまで成功例はあるものの花梅については、まだ世界で報告例はないという。

「御神木の梅」の組織培養に当たった住友林業筑波研究所の研究員は「梅の芽を使って組織培養した。梅は桜と異なり極めて繊細な植物で、適した培養液を作るのがむずかしく何回も失敗した。昨年一月に天満宮からいただいた芽を使って行った培養でやっと成功した」と苦労を話されていた。

橘宮司と筑波研究所三川卓所長・中村主席研究員・中川研究員

菅公の御心宿る御神木の苗木

組織培養によって育てた苗木は現在、高さ十五センチほどの六本。これが五十センチ程度の安心できる苗木に育つには三年程度が必要で、まず菅公がお住まいされていた場所を模した紅梅殿の庭などに植樹する計画を立てている。さらに飛梅伝説は全国にあるものの、当宮は天神信仰発祥の天満宮として、この菅公の御心が宿った「御神木の梅」の苗木を増やし、必要とされる全国の社に贈って、〝平成の飛梅伝説〟をつくる夢も持っている。

また、今回、地主神社前の紅梅もDNA鑑定の結果、本殿前の「御神木の梅」と同じ種であることが判明した。

なお、この日の記者会見には、二十一社の新聞・テレビなどの報道陣が駆けつけ、発表に聞き入った。

花鎮祭を斎行し、ウイルス終息を祈願

記者会見に先立って、この日午前十一時から本殿で花鎮祭（はなしじめのまつり）を斎行し、プラム・ポックス・ウイルスが終息することを祈願した。

「紅和魂梅（べにわこんばい）」と命名
橘宮司「御神木の梅」に

組織培養が成功したことにちなみ橘宮司は、飛梅伝説の伝承の木である本殿前の「御神木の梅」に「紅和魂梅（べにわこんばい）」と命名した。学問の神として崇敬される菅公の「和魂漢才」の精神を末永く伝えられることを願っての命名となった。

境内梅の安全無事とウイルスの終息を祈願

東日本大震災から四年目 京大が当宮で「悲とアニマ」展を開催

――巨大舞台車上で鎮魂の能舞、梅交軒では鎮魂茶会も――

能舞「天神」で熱演する鎌田東二氏と観世流能楽師河村博重氏

美術作家・演出家やなぎみわ氏製造の移動舞台車「花鳥紅（かちょうこう）」

大勢の来場者が訪れた「悲とアニマ」展

東日本大震災の「悲しみ」を生死を超えたアニマ（霊性）に繋げよう―と、京都大学「モノ学・感覚価値研究会」は、三月七日から十四日まで当宮社務所などで「悲とアニマ」展を開催した。とくに大震災から四年目に当たる十一日夜には駐車場内に巨大な移動舞台車を配置し、犠牲者の鎮魂を祈願する能舞などを奉納した。

主催者側が当宮をこの催しの会場に選んだ理由は、北野の地には古くから雷神信仰などの自然信仰があり、その上に人神としての菅公への鎮魂と顕彰の信仰が加わったものし、「悲しみ」を、生きる力に転換させる力が備わっている、からという。

「鎮魂能舞」は、現代美術作家、やなぎみわさんが制作した移動舞台車上で、淡路人形座による人形浄瑠璃、電気紙芝居に引き続き行われた。ライトアップの中、神道ソングライターの肩書を持つ鎌田東二「京都大学こころの未来研究センター」教授がほらがいや横笛・ギターなどの楽器を駆使し「護りたまえ、鎮めたまえ」と、祈りの詞を奉じる中、観世流能楽師の河村博重氏が、この催しのために作られた「天神」を舞い、観衆を幽玄の世界に誘った。

終演後、鎌田教授は「本日は大変寒い中での鎮魂の思いを込めての奉納となった。四年前の三月十一日は、東北の厳しい寒さの中で、たくさんの方たちが亡くなられた。この悲しみを私たちは決して忘れてはならない」と、挨拶した。

この日、御土居内の茶室梅交軒では、被災地に二千点以上の陶器を寄贈した造形美術家の近藤高弘氏が「命のウツワプロジェクト」において制作した茶碗を使っての「鎮魂茶会」が、被災地への服喪と再生を祈念して行われた。

社務所などで七日から十四日まで行われた美術展は、被災地の復興していく過程を石と木で表現したスティーヴン・ギル氏の作品や松生歩さんの絵画など約三十点が展示され、連日、参拝者の鑑賞でにぎわった。

美術家近藤高弘氏による鎮魂茶会

「北野をどり」成功祈願祭
芸舞妓が〝四條かぶき〟奉納

今年の「北野をどり」（三月二十五日～四月七日）の成功を祈って二月十九日午後三時から本殿で、出演の上七軒歌舞会の芸舞妓ら十一人が参列して祈願祭を斎行した。

当宮には「慶長八年（一六〇三）三月二十五日、出雲阿国（いずものおくに）が北野松原で歌舞伎躍を演ずる」との記録があり、歌舞伎発祥の地といわれる。「北野をどり」は当宮で昭和二十七年に斎行された大萬燈祭にあわせて第一回が開催されて以来、今年で六十三回を数える舞踊公演で、今回の主演目が、阿国の恋模様を舞踊劇で表わした「四條かぶき」であるところから、公演の成功と上演期間中の安全を願っての祈願祭となった。祝詞奏上の後、参列の芸舞妓が「四條かぶき」の一場面を奉納した。

祭典後、芸舞妓を代表し、梅嘉さんと梅智賀さんが報道陣の質問に「本殿前で舞うことができ、大変緊張しましたが、頑張って公演に臨もうという気がみなぎりました」と、感激の様子で話していた。

御本殿にて「四條かぶき」奉納

京とうふ藤野
――十富茶室（とうふちゃしつ）を奉納

境内神域の梅が見頃を迎えた三月十一日、当宮門前町で豆腐店を営む「京とうふ」藤野株式会社（代表取締役 藤野清治氏）が、この度「折畳席十富茶室」を奉納され、御本殿にて奉納奉告祭斎行した。

京とうふ藤野は昭和三十九年の創業、北野天満宮門前に本店を構え、現在京都市内に六店舗を経営する老舗の京とうふ屋さんとして知られる。

当宮が天正年間に太閤秀吉公が催した大茶会「北野大茶湯」の地であり、お茶に縁が深く、茶文化を今に受け継ぐ神社であることから、「是非とも天神さんにお納めしたい」との想いにより奉納の運びとなった。

当日は、代表取締役 藤野清治氏をはじめ関係者五名が参列。藤野氏が神前に玉串を捧げた。祭典後、拝殿にて橘宮司より感謝状を交付し、この度の奉納にあたり謝意を述べた。

今後この茶室を北野天満宮で催す様々な文化行事に活用していく予定である。

感謝状贈呈

玉串拝礼

十富茶室外観

北野の光

天満宮のこれからの祭典・行事〈四月～六月〉

4月16日～19日

文子天満宮祭

「文子さん」「文子祭」と呼ばれて親しまれている末社文子天満宮の例祭。
４月16日（木）から19日（日）まで４日間にわたり斎行する。

4月20日　明祭（中祭）

御祭神菅原道真公の冤罪が晴れた日に当たる４月20日、その喜びを神前に奉告する祭典。

6月1日　火之御子社例祭

「雷除大祭」の愛称で親しまれる摂社火之御子社例祭。６月１日早暁午前４時から斎行。

5月上旬～下旬

修学旅行参拝

中学生を中心とする修学旅行中の昇殿参拝。５月上旬から下旬にかけて一番のピークを迎える。

5月13日　献酒祭

酒造組合や酒造会社の代表らが参列し、神前に新酒を供え、よい酒ができたことに感謝するとともに酒造りの安全と業界の繁栄、関係者の息災を祈願する祭典。

祭事暦（4月1日～6月30日）

［4月］

4月1日	午前10時	月首祭
3日	午前 9 時半	神武天皇陵遥拝式 天皇皇后両陛下帛琉共和国 御渡航行幸啓安泰祈願祭
12日	午前10時	賣茶本流献茶祭 煎茶賣茶本流家元 渡邊琢宗宗匠奉仕
15日	午前10時	月次祭 天皇皇后両陛下帛琉共和国 御渡航還幸啓奉告祭
16日	午前10時	摂社 地主社例祭
	午後 2 時	末社 文子天満宮神幸祭
19日	午後 4 時	末社 文子天満宮還幸祭
20日	午前10時	明祭（中祭式）
25日	午前 9 時	月次祭
	午後 4 時	夕神饌
29日	午前10時	昭和祭

［5月］

5月1日	午前10時	月首祭
5日	午前10時	児童成育祈願祭
13日	午前11時	献酒祭
15日	午前10時	月次祭
25日	午前 9 時	月次祭
	午後 4 時	夕神饌

［6月］

6月1日	午前 4 時	摂社 火之御子社例祭（雷除大祭）
	午前 9 時	月首祭
7日	午前10時	二條流献茶祭 煎茶道二條流家元二條雅荘宗匠奉仕
9日	午前10時	宮渡祭（中祭式）
10日	午前10時	青柏祭
15日	午前10時	月次祭
17日	午前10時	末社　竈社例祭
25日	午前 9 時	御誕辰祭（中祭式）
	午後 4 時	夕神饌
30日	午後 4 時	夏越の大祓式・茅の輪神事

月釜献茶（4月1日～7月31日）

［4月］

4月1日	献茶祭保存会	大塚　宗香	(明月舎)
5日	梅交会	村岸　宗紫	(松向軒)
15日	献茶祭保存会	木村　宗光	(明月舎)
	松向軒保存会	森田　宗圓	(松向軒)
26日	紫芳会	鬼塚　宗節	(松向軒)

［5月］

5月1日	献茶祭保存会	分林　宗由	(明月舎)
10日	梅交会	田中　宗恵	(松向軒)
15日	献茶祭保存会	前田　宗音	(明月舎)
	松向軒保存会	秦　宗周	(松向軒)
24日	紫芳会	新居　万太	(松向軒)

［6月］

6月1日	献茶祭保存会	不審菴社中	(明月舎)
14日	梅交会	横田　宗重	(松向軒)
15日	献茶祭保存会	北風　宗照	(明月舎)
	松向軒保存会	仙水会	(松向軒)
28日	紫芳会	植中　宗佳	(松向軒)

［7月］

7月1日	献茶祭保存会	多門　宗粒	(明月舎)
12日	梅交会	合同茶会	(松向軒)
15日	献茶祭保存会	速水滌源居	(明月舎)
	松向軒保存会	山本　宗朝	(松向軒)
26日	紫芳会	今村　宗幸	(松向軒)

6月9日　宮渡祭（中祭）

御祭神・菅原道真公が北野の地に鎮座された日に当たる6月9日に祭典を執行する。

6月10日　青柏祭

柏の葉に御飯を包み、神前に供え季節の変わり目の神事として無病息災を祈願する。

6月中旬　梅の実採取

正月の縁起物「大福梅」となる梅の実の摘み取りを6月中旬から約一週間がかりで行う。

6月25日
御誕辰祭（中祭）・大茅の輪くぐり

6月25日は御祭神菅原道真公の誕生日に当たり御誕辰祭を斎行。楼門では恒例の「大茅の輪くぐり」を行う。

6月30日　夏越の大祓式

夏越の大祓を6月30日午後4時から本殿前中庭にて斎行する。

第五回

「国宝 北野天神縁起絵巻」を読む

同志社大学文学部教授　竹居 明男

「任大納言拝賀」の段

道真公、一時に十首、二時に二十首の詩を詠む。ついで大納言に就任する。
―「一時十首詩作」・「任大納言拝賀」の段

寛平七年（八九五）三月二十二日（後述の『菅家文草』によれば、三月二十六日）のこと、まだ東宮（皇太子）でいらっしゃった「延喜の御門（醍醐天皇）」から令旨（皇太子などの命を伝える文書）が下り、大唐国には一日に百首の詩を作る者がいると聞くが、才智並ぶ者もいない道真のこと、一時（約二時間）のうちに十首の詩を作れるであろう、との仰せがあった。そこで、その場で十の題目を給った道真公は、「酉の刻から戌の時（午後六時～八時）」にかけて十首を詠作して東宮に献じた。その翌年には重ねて令旨が下り、二時のうちに二十首の詩を作って献じたので、「昔も今も斯かる不思議なし」と大評判になった。

以上のエピソードは、いずれも公の詩文集『菅家文草』巻五に基づくもので、前者は「（寛平）七年暮春二十六日」云々の説明のもと、「送春」「落花」「夜雨」以下の十首を掲げる。詞書では、冒頭の「送春」を引用しており、これは藤原公任撰『和漢朗詠集』などにも採録された詩である。後者は、「去春十首」に続いて「東宮寓直（宿直）の次に」ものされたといい、「風中琴」以下十七首が掲載されている（公によれば三首は後に失われたという）。ちなみに道真公は、時に左大弁・侍従で、春宮亮を兼任していた。

さて、本絵巻第二巻第三段にあたる詞書は、以上の内容に続いて

又、寛平九年（八九七）六月にぞ、中納言より大納言に上りて、やがて其の日、大将に宣旨下りしかば、三度まで御辞退ありしかど許されずして、其の年の十月に、延喜の御門位に即かせ給ひて、万機を摂録（籙）して、

と記し（厳密には、権大納言兼右近衛大将に就任。同日に、やがてライバルとなる藤原時平は大納言兼左近衛大将となった。なお醍醐天皇の即位は七月が正しい）、その直後に計七紙にわたる長い画面をはさんで、第四段の詞書冒頭の

昌泰二年（八九九）二月にぞ、右大臣に上がらせ給ひけり

に続いている。

画面は、まず右端に基壇を設けた朱塗り白壁の壮麗な宮門（屋根には鳩がたむろする）を、白張や狩衣姿の人物がくぐっていく様子を描く。しばしば、宮城の正門である朱雀門と説明されるが、道真公在世時の同門の結構（七間五戸）の正確な再現ではない。一方、左端には、軒先に釣灯籠が下げられた宮

殿があり（やはり屋根には鳩の姿が見える）、その間の広々とした空間に十名ほどの行列が描かれている。中央には、黒の袍、白袴をはき、後方に長々と裾を引いている束帯姿の道真公。先頭には、先駆をつとめる二人の公卿、そして道真公の前後には、細纓に緌の冠をかぶり、青色の袍を着した随身（身辺警護にあたる武官）たちの姿が描かれる。

この画面は、一応、任大納言の拝賀（新任の謝意を告げる拝礼の儀）を描いたものと考えられるが、前述の、詩作のために東宮のお召しに応じる道真の姿が重ね合わされているようにも見うけられる。

道真公、右大臣に就任する。ついで祖父以来三代の家集を天覧に供する。
――「任右大臣」・「家集奏覧」の段

この段の詞書は、先に引用した右大臣就任の記事に続いて

昌泰三年（九〇〇）八月かとよ、祖父三位（＝清公）の家の集、菅相公（＝父是善）の家の集、我が文草二十巻、漏らさず天覧に備へ給ひしに、叡感の余りに、詩をぞ作らせ給ひける。

と記し、その後に、醍醐天皇の御製の詩を掲げている。すなわち、道真公は、右大臣就任の翌年八月に、祖父以来三代にわたる家集（いわゆる『菅家集』六巻、『菅相公集』十巻、『菅家文草』十二巻）を奏覧したところ、天皇は感動のあまり詩を詠まれたという。その詩の結句には（書き下して引用）

更に菅家の白様に勝れること有り
茲れより抛ち劫てて匣の塵こそ深からめ

とあり、道真の詩は、かの唐代の詩人白楽天にも勝るものがあり、今後は白楽天の詩巻は書箱の中にしまいこんで取り出さなくなるであろう、とまで述べられたのであった。

画面は、宮殿の階下に随身二人と狩衣姿の人物、また階上の簀子に二人の公卿が描かれるが、道真はすでに建物の中にいるようである。建物は前段左端と同構図であるが、釣灯籠は無く、基壇の文様も相違し、さらには屋根に鳩の姿も描かれていない。

なお以上をもって、本縁起の第二巻が終わる。

「家集奏覧」の段

献茶祭保存会だより

●平成二十七年 役員会並びに初寄り

一月七日午前十一時から明月舎で、献茶祭保存会役員並びに平成二十七年明月舎月釜奉仕者による献茶祭保存会初寄りが催された。これに先立ち、午前十時半からは社務所にて役員会を開催し、来年度予算案に関する件等の審議が行われた。

初寄りでは、宮司挨拶に続き月釜奉仕者に対し委託書を交付、各月釜のご奉仕をお願い申し上げた。

ボーイスカウト第八十五団だより

●伊勢の神宮参拝

一月十八日、ビーバー隊・カブ隊・ボーイ隊合同による、恒例の神宮参拝を行った。当日は天候にも恵まれ、まずは外宮、そして内宮を参拝。おかげ横丁ではお土産探しや伊勢名物などを食べながら楽しい時間を過ごした。

神若会だより

●京都平安・京都橘・京都北・京都洛北・京都洛央ライオンズクラブ ～合同新春例会で天神太鼓披露

京都平安・京都橘・京都北・京都洛北・京都洛央のライオンズクラブによる新春合同例会が一月十五日、からすま京都ホテルにて開催され、北野天神太鼓会が和太鼓を披露した。およそ百名の会員が参加する中、京都平安ライオンズクラブ幹事の梶谷誠氏の紹介により、「祝い太鼓」や「翔龍」「一心」といった天神太鼓の代表曲を演奏し、新春例会を盛り上げた。

連歌奉納

菅公は「連歌の守護神」として崇敬され、北野天満宮では、鎌倉初期から御神前で「法楽」と称する連歌の会が開催されています。

室町時代には、北野連歌会所が設けられて、名立たる連歌の名人・宗祇が会所奉行を勤め、千句興行や万句興行も営まれ、天皇や将軍も一句を詠じています。

平成二十七年三月二十二日　於・北野天満宮

北野天満宮奉納梅ヶ枝連歌　世吉

賦朝何

京都連歌の会　宗匠／図子まり絵

執事／丸山　景子

初折　表

菅公を偲ぶ手振や菜種御供　宮司　橘重十九

松の緑をはやす梅が香　裕雄

ゆく水の溪に音せぬ春もなし　和伸

覧きよらに山のあけくれ　景子

坂の上の雲はいづくに向ふらん　和行

都へいそぐ若人の影　節子

月明り旅衣ととどめばや　光代

萩の葉末の露ゆらめきぬ　敦子

初折　裏

虫の音も絶ゆることなくかくれ里　孝子

たつみの方へいほりむすばむ　満千子

わが恋は宇治の柴舟幾瀬越え　稔

わが恋は宇治の柴舟幾瀬越え　誠三

栖もこがれずつなぐあじろぎ　まり絵

引く波にのこれるくひぞいかばかり　武彦

地震のすごきにたゞ惑ふなる　幸子

弥陀仰ぎ祈りひたすら過ぐ三年　和行

野辺はうるはし西も東も　節子

童べの声のみ聞こゆ宵の風　稔

影踏み合ふや涼し月光　敦子

ほととぎすやがてなのめに飛びゆきて　和伸

草の葉ひらく何を待つころ　武彦

花衣今ひとたびの目を細め　幸子

都うららにとよむ和太鼓　誠三

名残折　表

宮柱あらためられて春の雨　光代

やまぬ思ひはみくぢにゆだね　満千子

さねさしの相模の海の君に問ふ

男波女波もくだくいはむら　孝子

旅立てば雲にかくれぬ草の戸も　景子

垣根ばかりはまだくれもせず　まり絵

雪来むと鳴神渡す向う山　和伸

嘴ひびかせて白き鳥飛ぶ　節子

たらちねの母のいませば帰りなん　和行

憂き身の程を思ひこそやれ　敦子

沢辺のひともとすすき頃傾き　稔

竹藪馳けて犬の尾に露　武彦

須磨寺や月よしやと手向く笛　幸子

公達寒く秋は深めり　誠三

名残折　裏

宿借らむ酒をくみつつ語りつつ　光代

掬するごとにゆるる玉の緒　満千子

ありあけのあさき夢みし旅枕　孝子

蝉の声しむ森の下道　和行

遠山にかかれる雲のわきわきて　まり絵

うるほす雨も足らふこち風　和伸

笑みさかえ北のみやしろ花ぞ濃き　節子

鈴音のどかにくるる広前　景子

満尾

句上

宮司　一句　節子　四句　稔　三句

裕雄　一句　光代　三句　誠三　三句

和伸　四句　敦子　三句　まり絵　三句

景子　三句　孝子　三句　武彦　三句

和行　四句　満千子　三句　幸子　三句

清々しく初詣参宮

神社恒例行事である初詣伊勢参宮を一月十九日、当宮神社総代宮階有二氏を団長に役員・崇敬者あわせて四十三名の参加で実施した。

豊受大神宮、続いて皇大神宮を御垣内参拝。好天にも恵まれ、一昨年の神宮式年遷宮により真新しくなった御正宮を前に、参加者皆が清々しく参拝し、今年一年の平穏無事を祈念した。

「白松」三本を宝物殿前に移植

三月十二日、境内表参道南側に植樹していた「白松」三本を、宝物殿前に移植した。この「白松」は、埼玉県花と緑の振興センター所長（当時）横山奉三郎氏より平成二十三年にご奉納頂いた松で、奉納当時は三本ともまだ苗木に近い状態であったため、境内南側の松原で仮植樹をして育ててきた。

約四年間、三本ともすくすくと立派に成長し、この度晴れて境内宝物殿前に移植する運びとなった。

天神さん 思い出写真館

今号も明治三十五年に斎行された「一千年大萬燈祭」の写真帳からの一枚。楼門前の賑わいはすごいの一語に尽きる。楼門は、四年前に出来ているが、「文道大祖風月本主」の扁額が掲げられるのは大正十年だから、当然のことながらこの時はまだない。

にぎわいのほどは写真を見てもらうことにして、大萬燈祭の記念歌が作られているので、その歌詞を添えたい。ちなみに歌の作者は『日出新聞』（京都新聞の前身）の元記者金子静枝。

（一）日本国中菅公（てんじん）さまを、まつらぬ土地なき御神徳　千年祭に萬燈会　サアサ北野へ参りましょう（二）手習ひ学問詩歌連俳（うたはいかい）の、みおやと仰げる御神徳（千年祭に萬燈会以下の言葉は以後繰り返し）（三）神殿末社の修復も出来て、まもりあらたな御神徳（四）南おもての御園はひらけ、道もひろがる御神徳（五）匂ふ梅ヶ枝みどりの松と、ともに栄ゆる御神徳

正式参拝された皆様（敬称略）（一月～三月）

一月　九日（金）京都学園大学
一月　十八日（日）野上八幡宮
二月　二日（月）ＮＨＫ文化センター（大阪）
二月　五日（木）ＮＨＫ文化センター（京都）
二月　八日（日）尾上八幡宮氏子総代会
二月　十五日（日）滝谷山不動院
二月　十七日（火）京都シニア大学 史跡探訪部
二月二十七日（金）山神社総代会
二月二十八日（土）北野天満宮神若会
三月　一日（日）池浦天満宮
心游舎
三月　四日（水）城陽市寺田西地区民生児童委員協議会
三月　五日（木）白山比咩神社・吉田天満宮
全国天満宮梅風会理事会
三月　七日（土）三井住友ＶＩＳＡカードプレミアム会員
三月　八日（日）ＪＲ東海プレミアム会員
三月　十日（火）群馬県神社庁吾妻支部
三月　十五日（日）菅原神社
三月　十七日（火）日本税理士会連合会
三月二十二日（日）京都連歌の会
三月二十三日（月）全国天満宮梅風会京都府支部役員会
三月二十五日（水）金光教神戸灘教会長 三宅 修

挙式された皆様（一月～三月）

三月　七日（土）髙田 卓志・咲枝　ご夫妻
三月　七日（土）吉田 卓爾・響子　ご夫妻
三月　八日（日）木戸 勇策・優希　ご夫妻
三月　八日（日）河野 浩人・優希　ご夫妻
三月　十四日（土）土井 健司・志穂　ご夫妻
三月　十四日（土）河尻 純平・康子　ご夫妻
三月　十五日（日）田邊 淳平・麻奈未　ご夫妻
三月二十一日（土）古結 敦士・英利香　ご夫妻
三月二十一日（土）小関 雅明・雅子　ご夫妻
三月二十二日（日）和田 崇・真輝　ご夫妻
三月二十八日（土）井田 陽介・梓　ご夫妻
三月二十九日（日）西出 俊・佳菜　ご夫妻
三月二十九日（日）廣岡 大裕・恵　ご夫妻
三月三十一日（火）山本 展之・陽子　ご夫妻

御新郎御新婦お二方の末永いご多幸と御両家の益々のご発展をご祈念申し上げます。

献詠

濱崎加奈子選

菅公は詩歌に優れ、多くの名歌を詠われました。室町時代には「和歌の神」と仰がれ、さらに柿本人麻呂と山部赤人と並んで「和歌三神」と称えられています。

十二月「ときのま」

ときのまに心を過ぎる秘めごとの
　恋のかたひら今にかそけき　福井県　武曽　豊美

院の庭皇帝ダリア伸びたるを
　闘病の人ときのま見つむ　大阪府　村島　麗門

他所の子はつい此の間生れしが
　時のまに早一年を経る　岐阜県　波多野千寿子

湯気あげるおでん眺めつ子の帰り
　時計見上げるときのま長く　愛知県　鈴木　幸子

ときのまのもろびとともにこしかたは
　きざみしいろはふかまりてなほ　京都市　今井　輝子

ときのまを大事に生きし父がゐて
　アルバム中の昭和に浸る　京都市　若狭　静一

時の間もとまらず去れる人ありて
　師走の霰ほほに痛かり　神戸市　斎藤　興哉

ときのまも忘ることなき忠度の
　歌への思ひ志賀のさざなみ　愛知県　仁枝　高子

ひととせも返りみすれば時のまぞ
　ひとよにひとし邯鄲の夢　京都市　朝比奈栄子

時のまに過ぐるさだめの身にあれど
　訪れなき夜は長く明けなく　長岡京市　智野利恵子

楽しきを指折り数へまた愉し
　今年一年ときのまの夢　東京都　白石　雅彦

嵯峨の本装丁しつる雲母模様
　眺むる時ぞ心ときめく　東京都　白石　雅彦

日の本と名に負ふ国ぞあきらけく
　民の心を照らしてもがな　京都市　朝比奈栄子

ひと本の梅やあるらむ香りして
　春の気配の大寒の宵　長岡京市　智野利恵子

むばたまの夜の帳にいと白く
　咲ける梅をばもと本とせましや　京都市　石山　裕菜

雪明かり本の隙にも埋もれ寝て
　菅公思ふや今学生は　京都市　工藤　大介

夢かよふサナトリウムや白昼も
　草子に臥したき乙女わづらひ　東京都　岡田季実子

【評】一年でもっとも気ぜわしい時。同時に、一年という時間を振り返る時。さらにその巡る時の中で、自身の生き方そのものを問う時でもある。小さな単位の時間と、大きなスケールの時間と。そのどちらもが複層的に交わる歳末、人はそれぞれ時への思いを廻らせる。

一月「本」

今にして「東京裁判」本に載る
　パール判事の判決文は　福井県　武曽　豊美

読むよりも書きたい人が増えてます
　自分の個性光る一冊　大阪府　村島　麗門

病院の待ち合時間の徒然に
　本を読まむと持ちてゆくわれ　岐阜県　波多野千寿子

ああ比処も小さな本屋だったねと
　君の昭和を探す二丁目　京都市　若狭　静一

平安の草子合わせは優雅なり
　今も魅せらる希少絵文歌　愛知県　仁枝　尚子

孫と讀む絵本の中の子の動き
　ねむる時まで夜毎楽しく　愛知県　鈴木　幸子

あらたまの本かみしめつあゆみたし
　もろもろおおき現世とはいえ　京都市　今井　輝子

【評】子供の頃に読んだ本を大人になって読む。過去の人々の思いを行間に読む。文字離れと言われる時代にあっても、本の役割は失われない。

二月「頬」

寒風にけなげ数輪白梅の
　楚々とし咲くは頬笑ましくも　福井県　武曽　豊美

初めてのスキーの旅は菅平
　村のわらべの頬ピンク色　大阪府　村島　麗門

木枯らしに追はれ八十路の老農夫
　頬冠りして家路急げり　岐阜県　波多野千寿子

予報当たり北風強く小雪降る
　冷えゆく頬にマフラーまきて　愛知県　鈴木　幸子

あとしばしほほなず風を待ちのぞみ
　蕾ふくらむ梅のぞきおり　京都市　今井　輝子

頬そめて麗し稚児は庭駆ける
　見つむ眼差しやさしき光　愛知県　仁枝　尚子

蕗のとう頬よせあひて春光を
　鉄幹へもと採るをためらふ　愛知県　仁枝　尚子

頬なでて去りゆく風を見送りて
　春がそこまで近づくを知る　京都市　若狭　静一

三椏のくれなゐ蕾ほほよせて
　君がおとなひ迎えけらしも　京都市　石山　裕菜

頬塗らし伝う涙のなにごとか
　伏したるひとみ思いわずらむ　東京都　白石　雅彦

頬つたう涙をぬぐう指先の
　優しさ白さ儚さ冷たさ　長岡京市　智野利恵子

赤白に咲きわけ競う梅の花
　美妓は春辺に色をうつしつ　京都市　朝比奈栄子

文なきに頬に零るる白露は
　散りくる雪か袖の雫か　京都市　工藤　大介

【評】身体部位の中でも、心の状態や体の変化が色としておもてにあらわれるところ。その色を詠んだ歌。「梅の花紅の色にも似たるかな阿呼がほほにつけたくぞある」道真公五歳の時の作と伝えられる。

三月「桃」

楽しきは桃の節句やおひなさま
　ひ孫の代にも面変はらずに　福井県　武曽　豊美

子等巣立ちひな壇出さずひなあられ
　桃の花活け夫婦でつまむ　大阪府　村島　麗門

亡き母の手あとの残る内裏雛
　桃の節句に一入偲ぶ　愛知県　鈴木　幸子

季のゆるみふくらみはじむ姿見せ
　桃のいとしさなほかはゆらし　京都市　今井　輝子

八重桃が陽光浴びて鮮やかに
　花びら凛と造花の如し　岐阜県　波多野千寿子

何事もなかりしごとく咲く桃よ
　四年の辛苦を命日に問ふ　京都市　若狭　静一

桃食めは父母思ふ小鳥なく
　春の兆しのあたたかき朝　京都市　塩小路　光胤

伝へきて桃花の精は西王母
　ひと待つ床にひそやかに座す　愛知県　仁枝　尚子

枝だれ桃の花を目ざして歩を進む
　初夏の朝を迎ふぬくもり　和歌山県　立川　澄子

梅香り桃山染めて八重桜
　四方は霞める敷島の春　東京都　白石　雅彦

百千鳥囀る春に逢ひ初めし
　君のの花桃句ふ　長岡京市智野利恵子

こち吹かばたゆたふ桃の花君が髪
　ゑむ花の間にゑふはうるはし　京都市　工藤　大介

鉄の砲もて荒ぶこころにも
　求むる桃花の美郷やあるらむ　京都市　朝比奈栄子

【評】桃の節句の歌がみられた。毎年同じ季に飾られる雛人形にはたくさんの思い出がつまっている。最近は古典的な顔立ちの人形が少ないと聞く。和歌と同様、古来の日本の美意識を大切に伝えていくことができればと願う。

●献詠奉納についての問い合わせは、北野天満宮献詠係までご連絡ください。

天満宮 歴史の一齣

京都大学名誉教授
藤井 譲治

京都府文化財新指定 根本御影

当宮所蔵の天神像二幅が、昨年度京都府文化財に新たに指定された。一つは今回紹介する当宮で道真公の御影として最も重んじられている「根本御影」（写真1）である。

天神像には、大きく分けて束帯天神像、綱敷天神像、渡唐天神像の三種があるが、本像は束帯天神像で、絹本着色、大きさは、縦八四・三センチメートル、横三四・二センチメートルである。

作者は、鎌倉時代前期の似絵の画家である藤原信実と伝えられているが、少しさがる南北朝から室町時代のものと推測されている。高麗縁の上畳に座し、笏を持ち、鋭いまなざしを彼方に向ける、迫力と威厳に満ちた像である。

着用する装束は、鎌倉時代以降の強装束（こわしょうぞく）ではなく、平安時代の萎装束（なえしょうぞく）で、古様を伝えており、天神信仰の貴重な遺例であり、神影の優れた作例と評価されている。

髻（もとどり）を収める巾子（とじ）のある冠を戴く。冠に附属する二条の纓は背後が透けてみえ、割菱文を散らしている（写真2）。黒の袍、霰文の白袴を着す。

注意して見たいのが、写真3に示した平緒の模様である。平緒は、束帯のとき胴に巻き結び余りを前に垂らす幅広の平打ちの組緒のことで、儀仗の太刀の佩緒（はきお）として使用されたものである。位階や官職により唐組・新羅組などの別があり、色は紫・紺・櫨（はじ）などが用いられるが、この尊像の平緒は、装飾豊に描かれ、なかでも青色で賦彩した最も内側には道真公ゆかりの白梅樹が描かれている。

画面の上端左側には墨線で色紙形を示し、その右側を赤で、左側を白で塗り、そこに道真公が流地の太宰府で、天皇から清涼殿で衣を下賜されたのを偲んで詠んだ七言絶句「九月十日」、「去年今夜侍清涼／秋憶詩篇独断腸／恩賜御衣今有此／捧将毎日拝余香」を二行ずつ書いている。なお、通常引かれる「九月十日」の句では、「秋憶」は「秋思」、また「捧将」は「捧持」である。

写真1　根本御影

写真2　冠部分

写真3　平緒

天満宮
［第六号］
平成二十七年四月一日 編集・発行／北野天満宮 編集責任者／神原 孝至 〒六〇二―八三八六 京都市上京区馬喰町 電話 〇七五―四六一―〇〇〇五（代表） http://kitanotenmangu.or.jp/

火之御子社例祭 六月一日

かみなりよけたいさい

雷除大祭

●「北野の雷公（きたのらいこう）」と称えられる火雷神

農業・林業関係者に広く信仰され、近年では電気関係（電力会社等）、ゴルファーや釣り人の間でも信仰が広がっています。

●特別授与品の頒布

雷除けのお守・お札を開門の午前五時より特別に授与致します。

このお札は、「北野千体札」と称され、古くは千体限定の授与でしたが、近年はこの日より三日間頒布します。

●演芸披露

絵馬所では、午前十時より午後三時まで京都産業大学落語研究会による落語・漫才等の演芸が催されます。

特別授与品

なごしのおおはらえしき

夏越の大祓式

どなたでも神事に参加できます。

六月三十日 午後四時斎行

●茅の輪をくぐって、無病息災を祈願！

午後四時から神事を執り行い、神職とともに茅の輪くぐりを行います。

茅の輪をくぐって、厄難を祓い落しましょう！

●人形・車形でお祓いしましょう

人形に氏名・年齢を記して三度息を吹きかけます。

それを身の代わりとして大祓に差し出してお祓いします。

また交通安全祈願として、車形もあわせて行いましょう。

人形代

車形代

※氏子区域の皆様には、氏子総代を通じて形代をお配りします。

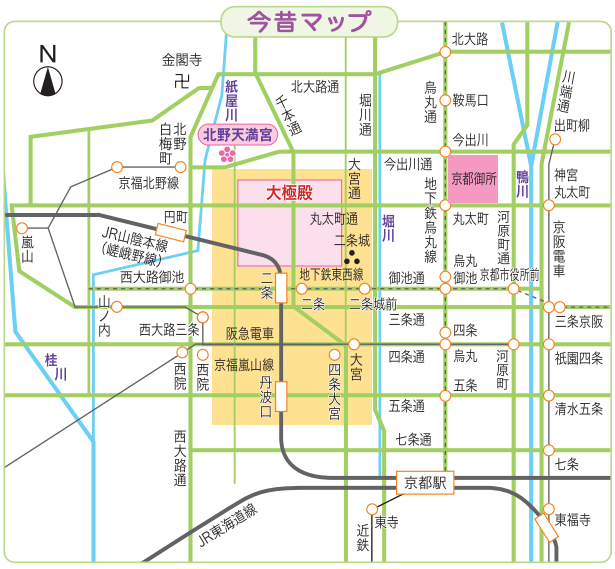
御縁日 境内ライトアップ

毎月25日は天神さんの御縁日。
夜9時まで境内特別ライトアップ！

定期購読のお知らせ

- 定期購読 1,000円（1年分）季刊・年4回発行
- 学校・教育機関でお申込みの場合は無料発送。
- お申込み・お問い合わせは、社務所まで。

今昔マップ



平安京

当宮は平安京の乾に位置し、古くより天のエネルギー、パワーの働く北野の地に祀られています。

平安京の内裏、大極殿北西に位置し三光門の真上に北極星が輝き、天子様が北極星を拝する聖なる社でした。

平安京の大極殿（遷都より600年の間）は今の京都御所の西にありました。

紙屋川、堀川に挟まれ、すぐ北西に当宮が建てられています。

平安京（大内裏）
大極殿（室町時代迄の平安京）
京都御所（室町時代以降）